

平成30年度 保護林モニタリング調査結果一覧

資料2

1 モニタリング調査の結果、影響が確認できた保護林（モニタリング実施間隔：5年）

番号	計画区	保護林区分・番号	保護林名称	面積(ha)	確認出来た影響	評価	管理方針書への反映 (モニタリングの実施間隔及び留意事項)	要領第5-2: 5年の要素 (H30調査)
1	阿武隈川	希少 2	深沢ヒノキアスナロ希少個体群保護林	175.28	イ 病虫害 (天狗巣病)	ヒノキアスナロは、高木層、亜高木層、低木層と各階層に出現しており林分として良好な生育状況にあるが、ヒノキアスナロへの天狗巣病の発生が各生育段階で見られることから、今後の保護林への影響に注視する必要がある。	5年 確認された影響: 病虫害(天狗巣病) ヒノキアスナロに病虫害(天狗巣病)の発症が幼齢木から成木に至るまで確認されており、生育状況への影響について留意する。	オ
2	西毛	群集 6	上野檜原シオジ等生物群集保護林	290.19	ア 野生鳥獣 (ニホンジカ)	保護林全体としては前回調査から変化は無く、良好に維持されているが、下層植生においてニホンジカの忌避植物であるミヤマイラクサが優占するなど、ニホンジカの食害と思われる影響が出始めている箇所がある。また、保護対象としているシオジの稚樹が少なく、シオジ群落の更新についても留意が必要である。 植被率(2013年 → 2018年) P1: 低木層20%、草本層10% → 低木層0%、草本層0~10% P2: 低木層40%、草本層90% → 低木層0~5%、草本層80~90%	5年 確認された影響: 野生鳥獣(ニホンジカ) 下層植生においてニホンジカの忌避植物であるミヤマイラクサが優占するなど、ニホンジカの食害と思われる影響が出始めている箇所がある。また、保護対象としているシオジの稚樹が少なく、ニホンジカの影響やシオジ群落の更新について留意する。	オ
3	西毛	希少 39	天丸山ヒノキ・ハコネコメツツジ希少個体群保護林	119.35	ア 野生鳥獣 (ニホンジカ)	全体としては保護対象のヒノキ、ハコネコメツツジは健全に生育しており、良好な状態で維持されているが、下層植生にニホンジカの食害と思われる影響が顕著に見られることから、今後の保護林への影響に注視する必要がある。 植被率(2013年 → 2018年) P1: 低木層20%、草本層70% → 低木0~5%、草本層0~10% P2: 低木層30%、草本層10% → 低木0~10%、草本層0% P3: 40% → 40%(ハコネコメツツジ)	5年 確認された影響: 野生鳥獣(ニホンジカ) 下層植生にニホンジカの食害による影響が顕著に表れ、植被率の低下、スズタケの枯桿、また立木の剥皮が目立ち、ニホンジカによる被害に留意する。	オ
4	千葉	希少 82	元清澄山ツガ・ヒメコマツ遺伝資源希少個体群保護林	170.29	ア 野生鳥獣 (ニホンジカ) 病虫害 イ (マツクイムシ)	保護林内でニホンジカの食害によると思われる下層植生への影響やヒメコマツに対するマツクイムシ被害に注視する必要があるが、現存している他のモミ、ツガ、カシ類については生育は良好であり、特に問題は見受けられない。 植被率(2013年 → 2018年) P1: 低木層50%、草本層50% → 低木層5~30%、草本層20~50%	5年 確認された影響: 野生鳥獣(ニホンジカ)、病虫害(マツクイムシ) ニホンジカの食害による下層植生の植被率の減少を確認した。今後もニホンジカ及びキョンによる被害状況、保護群落の維持、林床に生育する保護対象種をはじめとした植生の生存量、生育状況に留意する。また、ヒメコマツの病虫害(松くい虫によるマツ枯れ)の発生状況にも留意する。	オ
5	千葉	希少 83	南房総モミ希少個体群保護林	5.56	ア 野生鳥獣 (ニホンジカ)	ニホンジカによる下層植生等への食害が見られ、群落の更新が進んでいないことから、今後の保護林への影響を注視する必要があるが、上層を構成するモミは健全な状態で維持されている。 植被率(2013年→2018年) P1: 低木層10%、草本層10% → 低木層0~5%、草本層0~20% P2: (新設) → 低木層一、草本層0.1~1%	5年 確認された影響: 野生鳥獣(ニホンジカ) 後継樹が確認されず、林床植生が乏しい状況であり、ニホンジカによる剥皮、角砥痕、萌芽への食害も確認されている。今後もニホンジカ及びキョンによる被害状況、保護群落の維持、林床に生育する保護対象種をはじめとした植生の生存量、生育状況に留意する。	オ
6	下越	希少 55	赤谷山スギ遺伝資源希少個体群保護林	10.77	ア 野生鳥獣 (ツキノワグマ)	保護対象のスギがツキノワグマによる剥皮を受けていることから、今後、保護林の維持に影響するような枯死等が発生しないか注視する必要があるが、スギ群落は中齢から高齢まで健全に生育しており良好な状態で維持されている。	5年 確認された影響: 野生鳥獣(ツキノワグマ) 保護対象種であるスギにツキノワグマによる剥皮が見られるものの、枯死には至っていないが、今後、スギ群落の維持に影響するようなツキノワグマ被害が発生しないか、被害状況に留意する。	オ
7	富士川中流	希少 84	上佐野スギ・ブナ・イヌブナ希少個体群保護林	19.82	ア 野生鳥獣 (ニホンジカ)	保護林内でニホンジカによる下層植生への食害や樹皮剥ぎ等が多数見られることから、今後の保護林への影響に注視する必要があるが、保護林としては中齢から高齢級の保護対象樹種が健全に生育しており、良好な状態で維持されている。 植被率(2013年 → 2018年) P1: 低木層70%、草本層30% → 低木層0~10%、草本層2~5% P2: 低木層50%、草本層40% → 低木層一、草本層3~5%	5年 確認された影響: 野生鳥獣(ニホンジカ) 保護林内ではニホンジカの痕跡が多数確認され、過食圧により林床植生の植被率が著しく低下している。今後もニホンジカによる被害状況、保護群落の維持、林床植生の状況等に留意する。	オ
8	静岡	希少 64	安倍峠オオイタヤマメイゲツ希少個体群保護林	9.96	ア 野生鳥獣 (ニホンジカ)	下層~低木層についてはニホンジカの食害による影響が顕著であり注視が必要であるが、上層を構成する保護対象樹種のオオイタヤマメイゲツは健全に生育している。 植被率(2013年 → 2018年) P1: 低木層20%、草本層30% → 低木層5%、草本層30~60% P2: 低木層10%、草本層80% → 低木層0~20%、草本層70%	5年 確認された影響: 野生鳥獣(ニホンジカ) 保護林内ではニホンジカの痕跡が多数確認され、低木の倒伏、食害による立ち枯れ、林床植生の植被率の低下が目立つ。今後もニホンジカによる被害状況、保護群落の維持、林床植生の状況等に留意する。	オ
計			8 箇所					

【保護林への影響の種類】 (モニタリングマニュアル)

ア. 野生鳥獣 イ. 病虫害 ウ. 外来種 エ. 温暖化 オ. 自然攪乱 カ. その他 一. 影響なし

【モニタリング間隔 5年の基準】 (要領第5-2)

ア: 遷移の途中段階にある保護林
イ: 復元を行っている保護林
ウ: 保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林
エ: 保護林外部からの影響を受けている保護林
オ: 鳥獣・病虫害被害及び移入種による影響が顕著にある保護林
カ: 温暖化による影響が顕著にある保護林
キ: その他、短期間で大きな変化が想定される保護林

2 モニタリング調査の結果、影響がみられなかった保護林(モニタリング実施間隔:10年)

番号	計画区	保護林区 分・番号	保護林名称	面積(ha)	評価の 分類	確認出来 た影響	評価	管理方針書への反映 (モニタリングの実施間隔及び留意事項)
1	阿武隈川・会津	生態系 3	吾妻山周辺森林生態系保護地域	8,197.69	—	影響なし	森林調査、動物調査、利用動態調査の結果について、前回調査と比較しても特に変化は見られず、問題となる病虫獣害についても確認されなかったことから、保護林は良好な状態で維持されている。	10年 保護林は良好な状態で維持されている。
2	阿武隈川	群集 1	甲子・二岐山周辺生物群集保護林	3,100.08	—	影響なし	森林調査では、樹種により後継樹が見られないものもあるが、全般に良好に生育しており、動物調査においても様々な種の痕跡等が確認され保護林として良好な状態である。	10年 保護林は良好な状態で維持されている。
3	阿武隈川	希少 1	日山ミズナラ希少個体群保護林	21.13	—	影響なし	ミズナラの低木や稚樹が確認できなかったが、種子は十分供給されており、樹冠ギャップ等の発生により今後の更新が期待できる。前回の調査結果から特に変化は無く、健全な状態で維持されている。	10年 ミズナラの後継樹は確認できないものの種子供給は十分にされており、保護林は良好な状態で維持されている。
4	阿武隈川	希少 3	増沢モミ希少個体群保護林	7.68	—	影響なし	保護対象であるモミは低木～高木層まで見られ、また病虫獣害の発生も確認されていないことから、モミ群落は健全な状態で維持されている。	10年 モミは健全に生育しており、保護林は良好な状態で維持されている。
5	阿武隈川	希少 4	滝サワラ希少個体群保護林	7.51	—	影響なし	上層木のサワラの密度が高く後継樹が少ないが、前回の調査結果から特に変化は無く、病虫獣害の発生もないことから、サワラ群落は健全な状態で維持されている。	10年 サワラは健全に育成しており、保護林は良好な状態で維持されている。
6	阿武隈川	希少 5	八幡岳周辺ブナ・ミズナラ希少個体群保護林	214.21	—	影響なし	ブナ・ミズナラは後継樹が少ないが、上層木は健全に生育している状況である。また、病虫獣害の発生も確認されておらず、保護林は良好な状態で維持されている。	10年 ブナ・ミズナラの後継樹は少ないものの母樹は健全に生育しており、保護林は良好な状態で維持されている。
7	下越	生態系 1	朝日山地森林生態系保護地域	21,718.77	—	影響なし	森林調査、野生動物調査結果について、前回調査から特に変化は確認されなかった。問題となる病虫獣害についても確認されなかったことから、保護林は健全な状態で維持されている。	10年 保護林は良好な状態で維持されている。
8	下越・会津	生態系 2	飯豊山周辺森林生態系保護地域	18,343.01	—	影響なし	森林調査、野生動物調査結果について、前回調査から特に変化は確認されなかった。問題となる病虫獣害についても確認されなかったことから、保護林は健全な状態で維持されている。	10年 保護林は良好な状態で維持されている。
9	下越	群集 10	越後山脈生物群集保護林	2,008.53	—	影響なし	森林調査、野生動物調査結果について、前回調査から特に変化は確認されなかった。問題となる病虫獣害についても確認されなかったことから、保護林は健全な状態で維持されている。	10年 保護林は良好な状態で維持されている。
10	下越	希少 56	大久蔵トチノキ遺伝資源希少個体群保護林	8.83	—	影響なし	保護対象であるトチノキは低木や稚樹が少ないことから、更新状況について注視する必要があるが、全体的に個体数が少なく老齢化が進んでいるものの健全であることから、保護林は健全な状態で維持されている。	10年 トチノキは個体数が少なく老齢化が進んでいるものの健全に生育しており、稚樹も確認されることから、保護林は良好な状態で維持されている。
11	下越	希少 57	猿ヶ城岩オオフジシダ希少個体群保護林	5.25	—	影響なし	前回調査からオオフジシダ群落には特に変化は見られず、その生育環境は健全な状態で維持されている。	10年 オオフジシダをはじめとする暖地性シダの群落に変化は無く、保護林は良好な状態で維持されている。オオフジシダは生育環境が限られているため、生育状況の把握や植生の変化に留意する。
12	下越	希少 58	白山ケヤキ遺伝資源希少個体群保護林	6.53	—	影響なし	ケヤキは稚樹や実生は少ないものの、上層木は健全に生育している。ニホンジカやツキノワグマの軽微な被害が見られるので、引き続き影響には留意する。保護林全体としては健全な状態で維持されている。	10年 ケヤキは稚樹が少ないものの健全に生育しており、保護林は良好な状態で維持されている。
13	下越	希少 59	俎倉山スギ希少個体群保護林	143.95	—	影響なし	保護対象であるスギについて、前回クマの樹皮剥ぎが確認されたが、今期は新たな被害も無く、スギ群落は健全な状態で維持されている。	10年 保護対象種であるスギに5年前の調査ではツキノワグマによる樹皮剥ぎが見られたが、新たな被害の発生は無くスギは健全に生育しており、保護林は良好な状態で維持されている。
14	下越	希少 60	目指岳コウヤマキ遺伝資源希少個体群保護林	10.33	—	影響なし	前回調査からコウヤマキ群落には特に変化は見られず、その生育環境は健全な状態で維持されている。また、前回クマ剥ぎが確認されたが新たな被害は見られなかった。	10年 コウヤマキは健全に生育しており、保護林は良好な状態で維持されている。
計			14 箇所					

【保護林への影響の種類】(モニタリングマニュアル)

ア. 野生鳥獣 イ. 病害虫 ウ. 外来種 エ. 温暖化 オ. 自然攪乱 カ. その他 一. 影響なし